

プラネタリウム 番組

北斗七星 へのかっぱ



©GOTO/三善和彦

筑後川を舞台にした、北斗七星をめぐる物語

主人公の【ナナミ】は、筑後川の川辺で遠方にくれていました。そんなナナミの前に現れた生意気な男の子【次郎】。その次郎に付き合って星を眺めることになったナナミ。ところがなんと、次郎はカッパだったのです。そして、カッパの総大将【九千坊】が営む「北斗時計店」を訪れることに…。次郎との旅の中で、ナナミが目にした北斗七星の姿とは？九千坊が語る北斗七星の伝説とは？



春の星空さんぽ

春は、北の空高くのぼった「北斗七星」が星空の案内役。ひしゃくの形をした北斗七星は、【おおぐま座】のしっぽにあたります。このひしゃくの柄のカーブをのぼすと、オレンジ色に輝く【うしかい座】の1等星（アークトゥルス）、さらにカーブをのぼすと、白い輝きの【おとめ座】の1等星（スピカ）を見つけることができます。北斗七星からのぼしたこのカーブを「春の大曲線」といいます。また（アークトゥルス）と（スピカ）、【しし座】の尾で輝く2等星（デネボラ）の3つの星を結んでできる大きな三角形を「春の大三角」といいます。さらに、（デネボラ）の西には、1等星（レグルス）と輪をもつ惑星の土星（0.4等）が輝いています。



3月25日 0時
4月10日 23時
4月26日 22時
5月10日 21時